

細腕なんて言わせない!!

240



「そりゃー、生協に勤めていたころは毎日、ノンストップでした。今も調剤、相談と忙しいですけど、これからも頑張りますよ」と、語る関さん

女性も手に職を！ですよね

「昔はノンストップでした」と語る

関 洋美さん

■エンゼル薬局経営・薬剤師
■いわき市小名浜玉川町東一八ノ一六

電話／〇二四六一五八一三六〇三

「負けず嫌い、とにかく人に負けるのがいやなのよ」と、笑顔を見せながらメリハリある口調で語る関洋美さん(六九)は、薬剤師一筋に歩んできた「モーレッツ人」。現在は、市薬剤師会小名浜地区のブロック長を務める。

東京で生まれ、京都で数年間育ち、化学技術者の父親の仕事の関係から就学前にいわきに移った関さんは、高校卒業後、「女も職(資格)を持たないと」との考えから、幼いころ育った京都の薬料大学へ進んだ。

もともと、同大学へ進学したのにはもう一つ、理由があった。

「高校時代、関西への修学旅行に行けなかったのよ。その時、ちょうど、ジンマシンになっちゃってね。それで、京都の学校なのよ」と言って苦笑い。

同大を卒業後は、内郷の福島労災病院の薬局へ。そこで知り合った智夫(としお)さんと結婚し、しばらくは育児に専念していたが、請われて、玉川町の市民生協の薬店に勤務。その後、生協が閉店したため、同生協の向かいにあった土地を借

り、自分の薬局店を新装開店。

「両親も私もクリスチャンなの。今も教会に行くのよ」と、話す関さん、そんな関係もあって、店名を「エンゼル」にした。五十歳の「船出」だった。

市内にはひとところ数多くのマチの薬店があつたが、時代が進む中、大手のチェーン店なども続々と進出、影響も小さくなつた。

調剤も健康相談も実施

「このいわきも、確かにあちこちにチェーン店がいつぱいできましたよ。でも、私のところはさほどの影響は受けませんでした。今もそうですけどね」

淡々と続ける関さんの薬店内には、各種の薬品類、漢方、健康食品、そして、化粧品のほか、調剤も行い、「利用者の

ほとんどは常連さんで

す」。これらの商品の販売のほか、店には健康に関して相談に訪れる人も多く、市内はもちろん、郡山方面からも訪ねてくる、という。

そんな彼女のもう一つの顔は、今回初の「プロデュース業」だ。

仕事の関係で知り合った会社が支援を行っているドラム・アート・パフォーマンス、「TAO」の小名浜公演のため、この夏から汗をかいてきた。

二十年前の一九九三年に結成された「TAO」は、これまで世界各国で迫力ある太鼓演奏を行い、高い評価を受けている。また、東日本大震災以来、県内の会津や、



十一日夕、小名浜市民会館で「ドラムの宴」を主催。

チケットは同店で販売しているが、市内外の太鼓のグループなどが訪れ、購入している、という。

「生協に勤めていたころは朝八時から夜の十一時まで。当初はとにかくノンストップでしたよ」と振り返る細身の関さんは、「今も休日の日曜日は、勉強会や研修会で郡山や仙台へ行き、学んでいます。店は常連さんも多いので、調剤から健康相談まで、まだまだこの仕事やっていきますよ」と、笑顔で結んだ。

被害地の宮城県

の仙台、気仙沼などでも公演、成功を収めている。いわきでの公演は今回が初めてで、震災の早期復興の願いと併せ、同店の通算創業四十三年、新装二十周年を兼ねてこの十月



「シンガポールで修学旅行に…」

10月にはドラムの「TAO」公演主催

プロフィール せき・ひろみ

1944年3月8日生まれ。店内の奥に下がる「氣心腹口命」の墨文字。その文字の内容は、健康と人生・社会における教訓という。「父の影響で向上心が育てられました」。店は次男の妻、直美さん(40)らもお手伝い。クロレラ商品を扱う店としても知られ、「この商品はいいですよ」と、PR。料理は「今は、お嫁さんが、ね」。血液型はAB型



いわき市出身、スペイン在住作家 阿部幸洋 新作油彩展 ——或る日のラ・マンチャ——

■会期／平成25年9月26日(木)～10月7日(月)
午前10時～午後6時(最終日は午後5時閉場)

1951年、平に生まれた阿部幸洋氏は、「光」に魅了されて1980年からスペインに移住、風景作家として多くの作品を発表している。本展は、油彩画を中心にパステル画も含めた、叙情性豊かな作品を一堂に展示。

「春めく日」F6

今後のご案内

- 「珊瑚フェア」
10/17(木)～10/22(火)
- 「中西千人ガラス展」
10/24(木)～11/5(火)

小野美術

いわき市平字中町22番地の2 Kビル1F
☎0246-35-0383

HP: <http://onobijutsu.jp> e-mail: onobijutsu@sirius.ocn.ne.jp